

医療法人社団美心会



Gunma Intercultural
Co-creation Company



外国人材のスキルアップと活躍を支える
組織一丸のサポート

■業種：医療・福祉

■所在地：高崎市

■従業員数 八三八名 うち外国人材 四二名

「在留資格：介護二名、特定技能三名、

技能実習八名、家族滞在一名、留学九名」

「国籍：インドネシア、ネパール、ベトナム、

ミャンマー、フィリピン、ウズベキスタン」

※二〇二四年七月現在

■ホームページ：医療法人社団美心会（外部リンク）

介護の未来を支える

外国人材の存在

二〇一九年頃から介護人材の不足が深刻化すると言われており、また日本では今後、少子高齢化による労働力の減少が進むことが予想されています。こうした状況を踏まえ、これからは外国人材の力が必要だと考え、採用を始めました。

外国人スタッフの活躍

外国人スタッフを採用することに対して、当初は多少の不安を感じていました。しかし、実際に働いている姿を見ると、みなしっかりとご利用者様に向き合い、丁寧な対応をしてくれています。例えば、現在、外国人材を登用している施設のひとつであるカーサ・デ・ヴェルデ黒沢では、外国人フロアリーダーが四人おり、日本人の若手スタッフを指導する場面も増えてきています。彼らの働きぶりを見て、日本人スタッフの間にも競争意識が生まれ、職場全体にも良い影響を及ぼしています。

また、外国人スタッフはご利用者様からも「本当に優しく、丁寧だ」と高く評価されています。陰日向なく一生懸命に働いてくれており、その姿勢をとても嬉しく思っています。



努力をしっかりと評価

日本語学習サポート

ご利用者様との円滑なコミュニケーションのためには、日本語をしっかりと話し、理解できるように努めてもらうことが必要です。そのため、美心会では日本語学校と連携し、月二回オンラインによる日本語教室を開催しています。



現在、日本語能力試験の最も難しいレベルであるN1に合格した外国人スタッフが三人在籍し、その次に難しいN2に合格したスタッフも多数います。また、美心会では日本語能力試験の合格者に対して報奨金を贈呈しており、N1合格者には十万円、N2には五万円、N3には二万円を贈呈しています。さらに、合格者は約三〇〇人のスタッフが参加する院内研修会において、全員の前で表彰を受けます。努力すれば語学力が向上するだけでなく、報奨金を得ることができ、みんなからお祝いしてもらえるという成功体験が、日本語学習のモチベーションアップにつながっています。

また、日本人スタッフと外国人スタッフが一緒に参加する朝礼や夕礼の場でも、分からない日本語があればその場で確認できるようにしており、質問しやすい雰囲気づくりを心がけています。

外国人スタッフとのやり取りが 業務に与えた影響

外国人スタッフへの配慮として、「話すときはゆっくり」「伝えたことをもう一度確認」といったことを続けた結果、普段のコミュニケーションにおいても、そうした工夫が自然と行われるようになってきました。

このことがきっかけとなり、日々の業務にも良い影響が出ています。例えば、ご利用者様に対する説明がより丁寧になったり、会話の際にゆっくり話すことを意識するようになったり、言葉をはっきり伝えるようになったりと、全体的にコミュニケーションの質が向上していると感じています。

安心の住居サポート

住居については、シェアハウスへの入居か、一人暮らし用のアパートを借りるという二つの選択肢があります。いずれも、必要な家具家電は法人側で用意し、入居してすぐに生活が送れるよう手配をしています。一人暮らしを希望する場合には、家賃の半額補助及び更新料の負担を行っています。また、アパートの契約手続きにかかるサポートもしています。

宗教に配慮した環境づくり

インドネシア出身のスタッフが多いため、イスラム教を信仰される方がいます。イスラム教国内の女性は、頭にヒジャブといわれる布を着けますが、美心会では業務中でも着用してよいこととしています。このことは、彼女たちにとって、とても重要なことで、スタッフからは感謝の声が挙がっています。

また、お祈りの時間や場所を確保することや、宗教上禁忌とされている食べ物を排除する等、日本にいても安

心して自分の宗教を信仰できるよう配慮しています。



多文化共創カンパニー認証制度 申請のきっかけ

群馬県が認めてくれるという点で非常に大きな意味があると考えています。多文化共創カンパニーは何十社も認められるわけではなく、その年度内で認証されるのはほんの数社であり、希少な価値があると感じています。

また、自社が良い点を自ら発信するのではなく、群馬県が公に評価し、それを発信するという点が、企業にとって非常に意義のあることだと思います。

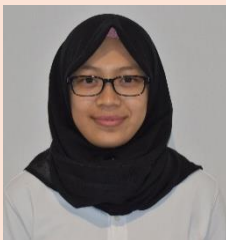
外国人材の活用を検討している 県内事業者へのメッセージ

自分が海外で働く立場になったとき、どうされると嬉しいかを考え、それを実践し続けることで、みんなでしっかりとフォローし合う風土ができました。

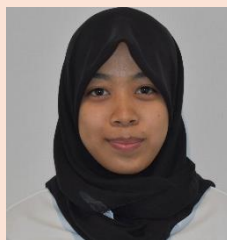
言葉の壁はあるかもしれませんが、時間が経てば確実に戦力となり、外国人材はもはや日本の社会にとって欠かせない存在になってきています。

「外国人だから」と意識せず、みんなと一緒に働くという雰囲気を作ることができれば、日本人、外国人関係なく、一体感が生まれ、良い組織になっていくと思います。大変なこともあると思いますが、それ以上にプラスになることがあるので、あまり深く意識せず、まずはチャレンジしてみることが大切だと感じます。

美心会で活躍する外国人材を紹介！



エルマさん(インドネシア出身)
大変なこともあります、ご利用者様が自分の名前を覚えてくれたときや、信頼してもらえたときにとってもやりがいを感じます。



エルミさん(インドネシア出身)
インドネシアでは介護の仕事があまりないため、美心会で学んだことを自分の祖母や家族の介護に将来役立てたいと思っています。



スチさん(インドネシア出身)
ご利用者様に自分の名前を覚えてもらえるとやりがいを感じます。これからも介護の技術や能力を高めていき、美心会で長く働きたいです。